平成25年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 キチジ

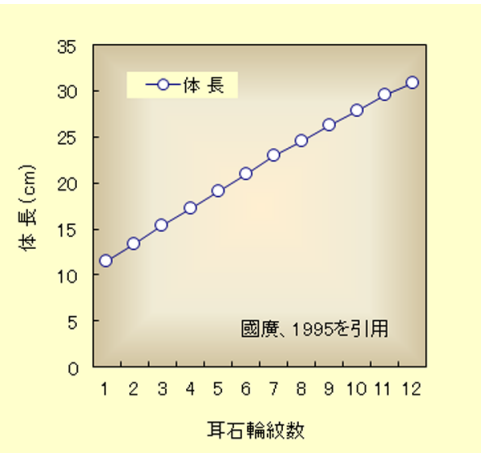
学名　*Sebastolobus macrochir*

系群名　オホーツク海系群

担当水研 北海道区水産研究所

生物学的特性

寿命:　不明
成熟開始年齢:　不明
産卵期・産卵場:　産卵盛期は春季（4～5月）、産卵場は不明
索餌期・索餌場:　北見大和堆東側と知床半島周辺の大陸棚斜面に分布、主な分布水深は300～1,200m
食性:　魚類、クモヒトデ類など
捕食者:　不明

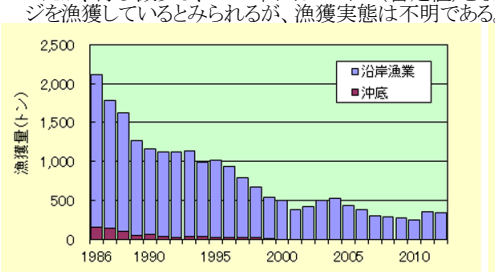


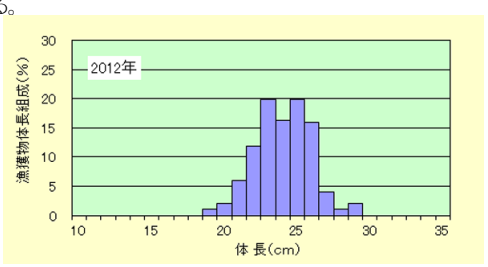
漁業の特徴

延縄、刺し網などの沿岸漁業と沖合底びき網漁業（沖底）により周年漁獲されている。近年の漁獲量のほとんどは、沿岸漁業によるものである。

漁獲の動向

オホーツク海と根室海峡における沖底と沿岸漁業の漁獲量は、長期的にみて減少傾向にある。1986年に2,000トンを超えていた漁獲量は、2001年には377トンまで減少した。漁獲量はその後増加傾向を示し、2004年には533トンとなったが、再び減少し、2012年には347トン（暫定値）となった。1996年以降、オホーツク海においてロシア漁船がキチジを漁獲しているとみられるが、漁獲実態は不明である。



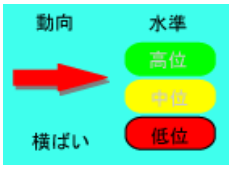


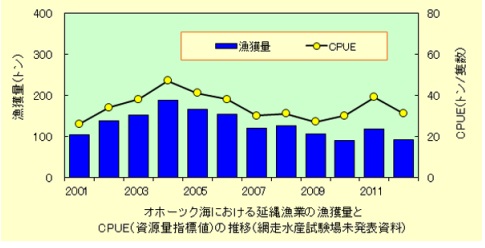
資源評価法

漁獲量の年変化と漁獲物の体長組成から資源を評価した。オホーツク海における延縄漁業（知事許可漁業）の2001～2012年の操業隻数は3～4隻と安定しており、この操業隻数を漁獲努力量とした。2001年以降の当漁業のCPUE（操業隻数あたりの漁獲量）を資源量指標値として用いた。また、漁獲物（延縄）から採集した標本と銘柄別水揚げ記録を用いて、漁獲物の体長組成を推定した。

資源状態

各海域の漁業種類別の漁獲量データがそろう1986年以降の27年間（1986～2012年）の漁獲量から、現在の資源水準は低位（最高値～0を3等分して判断）と判断された。また、2008年以降の資源量指標値の変化から、資源動向は横ばい傾向と判断された。2008～2012年の漁獲物からは、豊度の高い年級群の出現を確認できなかった。





管理方策

資源回復のためには、漁獲圧を下げる必要がある。平成25年度ABC算定のための基本規則2-1）に従いABCを算定する。本資源は極めて低い水準にある。未成魚が成熟するまで獲り残し親魚を増加させることが資源状態の改善に有効に働くと期待される。したがって今後とり得る方策としては、全体的な漁獲圧削減に加えて、漁獲物のサイズ制限が有効と考えられる。

	2014年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	197トン	0.6･Cave3-yr･1.03	－	－
ABCtarget	158トン	0.8･0.6･Cave3-yr･1.03	－	－

- 年は暦年（1～12月）
- 平成24年度にABC算定規則が改正され、ABCはABClimit＝δ_1･Ct･γ_1、ABCtarget＝ABClimit･αで計算した
- γ_1は、γ_1＝1＋k(b/I)で計算をし、kは係数（標準値の1.0）、bとIは資源量指標値の傾きと平均値（直近3年間）である

資源評価のまとめ

- 現在の資源状態は極めて低い水準にある
- 2008年以降の資源量指標値の変化から、資源動向は横ばいと判断される
- 2008～2012年の漁獲物からは、豊度の高い年級群の出現を確認できない

管理方策のまとめ

- 漁獲努力量の削減が必要
- 未成魚が成熟するまで獲り残し、親魚を増加させることが、資源状態の改善に有効に働くと期待される

執筆者：濱津友紀

資源評価は毎年更新されます。